

2009－2010 フィンドレー大学 福井県奨学生月例報告書 8月分

作成者 山下 佳菜恵

2008. 9. 10

こんにちは。はじめまして。8月18日より、福井県の奨学生としてフィンドレー大学で学ぶことになりました、山下佳菜恵です。これから1年間勉強だけでなく、さまざまな活動に積極的に参加しようと思っています。こちらで感じたことや経験したことをお伝えできたらと思っています。

以前の奨学生の方がフィンドレー大学について紹介してくださったので、今回は私が参加していることについて報告させていただきます。



☆授業について☆

フィンドレー大学では学部の授業を受講しており、授業は教育専科から2つ、ライティング、日本文化、演劇学、コミュニケーション学の6つを受講しています。授業は一週間に2回から3回あり、予習復習や課題で毎日忙しいです。すべての授業を違う分野から受講したので、多くの人と会うことができ友達もたくさんできました。特におもしろい授業は、演劇学の授業です。授業で自己紹介のパフォーマンスを行い、その際に福井県の小浜市について、オバマ大統領とかけて紹介したところ好評でした。授業後にも福井に興味を持ち、質問してくれる子もいました。また、教育の授業では現地の学校に行き、先生へのインタビューや授業を参観するものもあります。日本の大学とは違い、授業も講義形式だけではなくディスカッションやアクティビティーを取り入れた授業が多いのでとてもおもしろいです。

☆参加しているクラブについて☆

フィンドレー大学では、Habitat for Humanity というボランティアクラブ、空手クラブ、教育専科のクラブ、日本語クラブの4つに参加しています。教育専科のクラブ以外は、週に1回から2回あり積極的に活動しています。ボランティアクラブでは、月に数回イベントがあるので、また月例報告で報告できたらと思います。

☆President's Reception Party について☆

Arch Ceremony という入学式が終わり、8月末にすべての新入生がフリード学長のお宅に招待されました。日本では学長と直接話せる機会はほとんどなく、アメリカでも大きな大学ではあまりないので、これはフィンドレー大学ならではの行事だと思います。学長の家はとてもきれいで、立食パーティーも楽しみました。学長と直接話したところ、私が福井からの奨学生で教育学部であることを知っていました。福井からのお土産を渡し、福井について少しお話ししました。学長は学生のことをきちんと考えてくださる方で、とてもいい印象でした。フィンドレー大学で勉強できることを本当に嬉しく思います。



2009－2010 フィンドレー大学 福井県奨学生月例報告書 9月分

作成者 山下 佳菜恵

2009. 10. 11

9月になり授業が本格的に始まり、課題やレポートが増え忙しい毎日を過ごしています。しかし、たくさんのイベントもあったので、勉強と両立させながら楽しみました。今回は9月から始まったコンバセーションパートナーや私が参加したイベントについて紹介したいと思います。

☆Conversation Partner

9月の中旬に各日本人留学生にコンバセーションパートナーがつけました。自分のパートナーだけでなく他の留学生のパートナーとも話したり、どこかに行ったりできる自由なものです。一週間に一度会うことになっていて、自由に時間帯も決められます。私のパートナーは Nondace さんで、フィンドレー大学で英語を教えている先生です。話をするのが大好きな人で、日本にも一度来たことがあります。Nondace さんとはカレーライスを作って一緒に食べたり、フィンドレーの町や教会を案内してもらったりなどして交流を図っています。他のパートナーともオーケストラを見に行ったり、ポットラックパーティーに参加したりなど、学生だけでなく地元の人たちとも関わる機会を持っています。

☆Fall Festival のボランティア

新しい人達との交流を持つために、乗馬センターで行われた秋祭りのボランティアに参加しました。私は子どもたちにフェイスペイントをする仕事をしました。アメリカの子どもたちと関わるのはこのボランティアが初めてで、絵を描きながら話すことがとても楽しか



ったです。他にも、乗馬やミニ動物園、ハロウィーン用にかぼちゃのペイントをするコーナーなどがありました。アメリカのお祭りに参加するのは初めてだったので、いい経験になりました。このボランティアを通して知り合いになった子もいたので、一人で行動することに躊躇せず、アメリカ人だけの環境の中へ飛び込むことも大切だと感じました。

☆Ceder Point Trip

9月の下旬に Ceder Point という遊園地に行ってきました。これは留学生センターが企画したものであったので、参加者のほとんどは各国からの留学生でした。Ceder Point は五大湖の一つであるエリー湖の近くにあり、2つのジェットコースターがギネス記録になっているため有名だそうです。どれも日本にはないようなジェットコースターばかりで、立って乗るものや、90度に落ちるものなどもあり、どのアトラクションも楽しみました。ただ遊園地に行くだけでも、遊園地にある食べ物やゲームが初めて見るものだったので、アメリカの文化を感じられたような気がします。





左の写真は日本にもよくある、ゲームをして勝つと景品をもらえると
いうようなお店です。写真でもわかるように景品の人形が私の身長よ
りも大きいことに驚きました。また、日本の場合負けても小さいもの
をくれますが、アメリカでは、「惜しかったね。」のような声かけだけ
しかありませんでした。これも、物事がはっきりしているアメリカら
しいなと感じました。右の写真は、ロー
プウェーから見たエリー湖です。11 月
ごろから寒くなり営業休止になるので、
ハロウィーンのイベントもやっている
この時期にいけてとても良かったです。



☆Japanese Program Party

Japanese Program Party は毎月行われ、日本に留学したことのある学生が経験を发表或し、
こちらに留学している日本人が日本の大学や出身地などの日本の文化について紹介をしたり、留
学中に感じたことを共有する場です。時には、一緒にスポーツやゲームをしたりもします。今月
は私たちの番で、福井出身の私と朝日さんと、福井と福井大学についてプレゼンテーションを行
いました。クイズを含め参加型のプレゼンテーションにしたので、楽しんでくれたのではないかと
思います。今、留学を考えているフィンドレー大学の学生が、少しでも福井大学に留学してく
れるといいなと思います。

10 月は、Fall Break や Halloween があり、アメリカの文化に触れることができました。アメリカの大学で勉強することの大変さを実感しながらも、レポートやテストの結果が良いと自信につながり、毎日充実しています。今月はアメリカでの教育現場や教育方法について少し知る機会があったので、それについても報告したいと思います。

☆ナイアガラの滝への旅行

10 月の 2 週目に 4 日間の秋休みがあり、ニューヨーク州にあるナイアガラの滝へ行ってきました。Findlay とオハイオ州の州都 Columbus くらいしか知らなかった私にとっては、他の町の雰囲気を知るのもとてもいい経験になりました。また、ナイアガラの滝を初めて目の前にして、本当に感動しました。当日天気はあまりよくなかったのですが、それでもとても楽しむことができました。



☆Korean Language and Culture Lesson

今月、週に一度、韓国人の学生によって韓国語のクラスが開かれました。常日頃から新しい言語を習いたいと思っており、また韓国には一度行ったことがあったので特に興味がありました。韓国は日本から近い国ですが、日本ではなかなか言語や文化などについては学ぶ機会がなかったのでとても面白かったです。韓国語の言語システムや発音、簡単な挨拶を覚えることができたので、自分でも少し勉強したいと思っています。このように大学で外国語講座が授業以外で開講されるのは、国際意識を高めるのにとても良いことだと思います。福井にも多くの外国人の方がいるので、取り入れられるといいなと感じました。

☆アメリカの教育について

現在、教育学を受講しているため、現地の学校へ授業参観をしに行く機会が何度かありました。アメリカの小学校では、個人学習が取り入れられており、自立した学習者を育てるよう教師も工夫しているそうです。教室には、進度に応じたカラフルなポスターが飾られており、自由に使えるパソコンや本を読むためのソファのようなものも置いてありました。アメリカの教育現場は日本と比べて自由な雰囲気だと思っていましたが、先生を敬うところや細かい規則がきちんとあるところは、むしろ日本よりも厳しいように感じました。しかし、移民の国ということもあり、学力の違う生徒に対して、それぞれ別の課題をさせながら教室のマネジメントをするのは大変なのだろうと思いました。

また、先日はオハイオ州の他言語話者のための英語教育学会(Ohio TESOL Conference)にも参加させていただきました。研究発表はほとんどが実践的なもので、日本の教育現場では実現は難しそうなものが多かったように思いましたが、教授法の一つとしてとても勉強になりました。日本で英語教師を目指している私としては、生徒たちに「なぜ英語を勉強する必要があるのか？なぜいろんな言語の中から英語なのか？」という根本的な疑問を解決してもらったうえで英語を学

習してもらいたいと、この学会を通して感じることができました。また受験のための英語ではなく、英語は相手や文化を理解するための道具であることを理解してもらった上で、使える英語を指導したいです。そして、この疑問に対しての答えは、残りの留学生活の中で整理していきたいと思います。

現地の学校や授業見学は、引き続き時間を作り機会を持ちたいと思っています。そして、来期に実際に学校で教えることもできたらいいと考えています。

☆FABSS について

毎週小学校で FABSS(Findlay After & Before School Session)という日本語と日本文化のレッスンを週に 2 回、1 時間ずつ行っています。私は去年 1 年間 FABSS に参加した子ども達のクラスでお手伝いをしています。簡単な挨拶や歌はいくつか知っており、新しい言語だけでなく文化面にも焦点をあてて学習しています。子ども達は歌など通して発音することを繰り返して学習しており、短い学習時間ですが上手に話します。残り数週間ですが来学期もお手伝いしたいと思っています。



☆Halloween

アメリカでハロウィーンは子どもも大人も楽しみにしているイベントの一つです。大学でもハロウィーン関係のイベントがたくさんあります。食堂もクモの巣やかぼちゃなどで飾り付けされており、アメリカ人がいかに楽しみにしているかが感じられました。バンブキンカービングやペインティングも初めて経験することができ、英語の授業でアメリカ



の文化面についてこのことを伝えることができるなと感じました。また、10 月 31 日にハロウィーンパーティーに参加しました。アメリカでは特に盛り上がるパーティーのようで、一か月前くらいから仮装用の衣装を選んだり、とても気合いが入っているように感じました。大学生なので“Trick or Treat”はしませんが、友達と楽しい時間を過ごすことができ、アメリカの一大イベントを満喫することができました。

11 月は Thanksgiving Day や冬休みを目前にしてさらに課題が増えてきましたが、4 か月が経ち、時間の使い方や課題のこなし方などだんだん慣れてきて少し余裕が出てきました。Thanksgiving が終わるとすぐに期末テストなので、こちらの学生にとって 11 月が一番の頑張りどきのように感じました。今回も、今月行った活動について紹介したいと思います。

☆LAMP

教育学の“Teacher As a Profession”の授業で近くの Van Buren 小学校で LAMP というリーディングプログラムに参加しました。最近ではアメリカでも読書をあまりしない児童が増えてきているようで、それを少しでも改善するために、大学生と一緒に本を読むプログラムです。プログラムは 4 回あり、児童の好きな本を私たち大学生が読み聞かせたり、児童と一緒に読んだりします。一回が 30 分しかなかったのですが、たくさんは話せませんでしたが、現地の子どもたちと関わる機会があり勉強になりました。また、児童から逆に英語の語彙や学校のことなど多くのことを教わりました。

☆よさこい発表

Findlay 大学の近くにある空手道場のオーナーがオープンハウスをするということで、大学の日本語専攻の学生にダンスをしてほしいと声がかかりました。オーナーは依然 Findlay 大学で日本語を学んでおり、日本でも仕事をしている経験がある方でした。私は日本で少しよさこいをしていたのでアメリカ人の学生に何か教えてくれと頼まれ、週 1 時間 5 回をかけてよさこい発表に向けて練習をしてきました。発表者は 6 人で練習は 10 月の一週目から始まり、5 回の練習でも結構形になりました。本番ではよさこいは成功し、他にもオクラホマミキサーも市民の方と一緒に参加してもらいながら踊りました。日本でやっていたことがこのような形で役に立ち、また市民の方にもほんの少し日本の文化面を伝えられたので楽しかったです。

☆Habitat Fair

私は Habitat for Humanity というボランティア組織に所属していますが、今回のフェアで初めてボランティアに参加することが出来ました。今回のフェアは世界の Habitat とその国の文化紹介がメインとなるイベントでした。各国の留学生がブースを作り、日本のブースは日本人と日本語専攻の学生で運営しました。Habitat とは各国にある



非営利組織で、住居を建てることで支援を行っています。日本にもありますが、日本では自由に家を建てるのが法的に出来ないもので主な活動は東南アジアなどの国外で行われているようです。このフェアでは簡単な日本語を教えたり、名前をカタカナで書いてあげたり、「夢」や「友」などの漢字をしおりにしてあげたりしました。まだまだ日本について知らない学生が多いので、興味を

持ってもらえてよかったです。

☆Thanksgiving Day

26 日から 29 日まで Thanksgiving Holiday でした。Thanksgiving とは感謝祭のことで、起源は移民がアメリカに着いたときに食料が少なかったことから、収穫物に感謝をするというものですが、今ではクリスマスと同じく家族行事の一つとなっています。私は、友達の家に参加し Thanksgiving の料理をいただきました。七面鳥やマッシュポテト、パンプキンパイなど、料理の一つ一つに意味があり、日本のお

せちを連想させました。食べきれないほどの料理を作るのが普通のように、次の日はコールドターキーをサンドイッチにして食べるそうです。また、28 日の金曜日は Black Friday といい、モールではすごく安く商品を買うことができます。Black Friday は、安くしても黒字になることからつけられたそうです。モールの雰囲気も、日本のお正月のショッピングセンターのようでも賑わっていました。また、早く開く店は朝の 3 時ごろから開店するそうで驚きました。



12 月の 2 週目には期末試験があり、そのための勉強やレポートでとても忙しい時期でした。3 週目から 1 月の 1 週目までの 3 週間は冬休みだったので南東を中心に旅行をしました。今住んでいるフィンドレーとは英語も文化も違い、実際にそれらに触れることができました。今回は、秋学期の授業と旅行で感じたことを報告したいと思います。

☆秋学期の授業を振り返って

秋学期は、計 6 つの授業を受講しました。日本では教育学部なので、教育に関する分野しか学んだことがありませんでしたが、こちらでは興味のあった分野を受講することができました。特に大変だったのは、**Academic Writing** という英語の授業でした。現地の学生は必須の授業です。秋学期を通して、フィンドレー大学をいかに国際色の強い大学にできるかという内容で、学術的な書き方を学びました。今まで知っていたパラグラフライティングとは違う書き方で、論文を書くために必要な文章の書き方を学びました。短時間で多くの論文を書くのはとても苦労しましたが、いい練習になったと思います。最後のポスタープレゼンテーションで、大学教授に自分の意見を発表したこともいい経験になりました。

また、演劇の授業では、最後に発表がありました。ペアで一つの劇のワンシーンを演じるのですが、言葉もなかなか難しく覚えるのも大変でした。また、役や演劇に関するレポートが秋学期で一番多かったのもこの授業でした。しかし、パートナーの子が支えてくれたので、発表で成功したときには本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

以前の報告でも書いたように、教育の分野でも新しいことを学ぶことができました。この 4 カ月があつという間で本当に驚いています。時間を大切に春学期も頑張ろうと思います。

☆サウスカロライナ州（チャールストン、コロンビア）

Thanksgiving が終わると、町の様子は一気にクリスマスの雰囲気になりました。モールへ行くと写真のようにサンタクロースと写真が撮れるブースも作られ、小さな子ども達がドレスアップをして来るようです。手紙を入れるためのポストも設けられていました。サンタクロース一つをとってもアメリカと日本ではとらえ方が違うのだと改めて感じました。

チャールストンに友達がいたので、そちらへ 2 泊させてもらいました。チャールストンは南北戦争の発端の地で、記念碑や記念公園もあり、歴史的にも有名な場所のようです。また、チャールストンは海辺の町なので、街並みや景色もフィンドレーとは大分異なりました。右の写真は、レインボーハウスと呼ばれるもので、その通りの家の外観はピンクや水色、黄緑などのパステルカラーで塗られていました。



コロンビアは、サウスカロライナ州の州都です。コロンビアでは、州立博物館に行きました。この博物館では、アメリカやサウスカロライナ州の歴史、科学や自然などがセクションごとにわかれており、実際に触ったり、遊んだりできるものがたくさん展示されていました。じっくり見れば3、4時間はかかると思います。この時は、ちょうど恐竜の展示もやっていたので、以前福井に来たことのあるアメリカ人の学生と、福井の恐竜博物館のことも話していました。



☆ジョージア州 (アトランタ)

アトランタでは、有名な観光地である、コカ・コーラ博物館、CNN、世界最大のジョージア水族館、キング牧師の記念資料館や生誕地、「風と共に去りぬ」の作者であるマーガレット・ミッチェルの家などに行ってきました。

特に印象に残っているのは、キング牧師の記念資料館です。高校時代に、キング牧師のことをプレゼンしたこともあったので、どのようなことをしたのかはだいたい知っていましたが、それがど



れだけアメリカにとって重要なことだったのかはあまりわかりませんでした。しかし、ここに来て、黒人や移民がどのように扱われていたのか、写真や映像を通して知り、市民権を得たことがどれだけ大きなことだったのかがわかりました。また、多くの黒人の人達もこの資料館に来ており、子ども達に一つずつ説明していたのも印象的でした。いまだに、差別は完全にはなくなっていないです。だから、それをなくすためにお互いを理解する努力が必要なのだと思います。

☆フロリダ州 (オーランド)

フロリダ州のオーランドは、アミューズメントパークで有名な場所です。ここでは、Disney World に行ってきました。Disney World には4つのパークがあり、日本の Disneyland はその中の Magic Kingdom と似ています。Epcot というパークにはワールド・パビリオンがあり、日本のセクションでは、日本のお城のような建物や伝統的な作りの建物がありました。日本の文化は、アメリカでも人気のようで、伝統的な和柄の小物やお酒、お菓子、また、日本のアニメやゲームのキャラクターグッズもたくさん売っていました。また、日本食も人気でアメリカ人に好まれるように少しアレンジされて売られていました。



年越しは、Disney World で過ごしたのですが、カウントダウンはとても盛り上がりました。みんなで踊って騒いでいるところが、とてもアメリカらしいと感じました。また、日本とは違いクリスマスが終わり1月に入っても、町からクリスマスの雰囲気が消えないので、これも文化の違いだと思います。

2009－2010 フィンドレー大学 福井県奨学生月例報告書 1月分

作成者 山下 佳菜恵

2010. 2. 21

1月の2週目から春学期が始まりました。1か月程の長い休み明けだったので、新しい授業に慣れるのに少し時間がかかりました。しかしそんなことも言っていられず、次々と課題が出されるので今学期も忙しくなりそうです。1月は3週間しか授業がないので、あまり特別活動はできませんでしたが報告したいと思います。

☆春学期の授業

前学期の成績が開示され、GPAが3.5以上だったので **Excellent Academic Achievement** として認定されました。前学期頑張ってきたことが、このように目に見える形で返ってくると嬉しいものです。今学期は秋学期より2単位多い、計15単位を受講しています。アメリカの社会学、スピーチ、スペイン語、文学分析、英語教育学の計5つです。今回の授業もライティングやリーディングの多い授業なので大変ですが、日本で勉強したことがない内容が多いので大変おもしろいです。特に社会学ではアメリカの持つ自由なイメージとは違う、アメリカが抱えている深刻な問題を階級、ジェンダー、人種などの面から学ぶことができ勉強になっています。英語を勉強する上でこのような背景を知るとはとても重要だと感じました。また、毎回のレポートでは日本の社会や文化と比較しながらアメリカの問題について書いているので、自国の社会問題についても少し意識が深まったように思います。

そして、スペイン語も昔からずっと学びたい言語だったのでとてもおもしろいです。単語が英語と似ていたり、日本で何げなく聞いている外来語がスペイン語だったりと発見があり楽しんでいます。先生もペルー人なので、生のスペイン語を聞くことができます。授業はほとんどスペイン語で進められるので聞きとりに苦労し、言語習得の大変さを改めて感じています。

また、文学の授業では、三島由紀夫の短編小説を英語で読みました。日本でも読んだことがなかったのにもかかわらず、こちらで読む機会があるなんて思ってもみませんでした。この文学的分析でも日本の社会や女性像について考えるきっかけになりました。

また、3月から6回、現地の小学校で日本語の授業をすることになりました。日本の言語、文化や習慣について当たり前に思っていることを、なぜそのようなことを言うのか、するのかについて深く考えるのはおもしろいなと思いました。こちらにいと、日本人として客観的に日本という国を見られるような気がします。それも、文化の違いとして生徒たちに伝えられたらいいなと思います。

☆スノーボード (Mud River Resort)

フィンドレーは、1月ごろからひどい雪で今年はひざくらいまで積まりました。冬のフィンドレーは氷点下になるのも珍しくありませんが、去年と比べても今年は積雪量が多いようです。

そして、こちらに来て初めてスノーボードを体験しました。フィンドレーから、1時間半程の場所に **Mud River Resort** というスキーとスノーボードができる施設があるので行ってきました。福井に住んでいながらもスキー経験は1回だ



けで、しかも運動神経もよくないのでこけてばかりでしたが、おもしろかったです。もし、次行く機会があれば、レッスンなど、基礎的なことを教えてもらいたいなと思いました。



☆学内イベント

29日の金曜日に、フィンドレーから1時間くらいにある街、トレドのシンフォニー楽団がきました。このコンサートは前期にもあり、今回は2回目でした。前回はミュージカルや映画からの有名な楽曲が演奏され、今回はクラシックで構成されたコンサートでした。フィンドレーの学長のフリード氏は、音楽などの文化面に大変理解のある方で、フリード学長に変わってからコンサートなどが頻繁に開かれるようになったようです。学内であるコンサートや劇は、学生は無料で見ることができます。また、それ以外のさまざまなイベントでも無料でTシャツや食べ物が提供され、新しい人達と出会ういい機会にもなります。最近では、インドのお祭りがあり、インドのカレーやデザートが用意されていました。



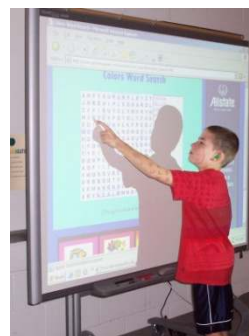
今月もあっという間に過ぎ、フィンドレーでの留学生活も残すところ2か月となりました。今月も学業が忙しく、なかなか特別な活動はできませんでした。しかし、最後の週は1週間の春休みだったのでそのことも含めて報告したいと思います。

☆ボーイスカウトでのプレゼンテーション

フィンドレーから30分程離れた、隣町のボーイスカウトの集会で日本についてのプレゼンテーションを行いました。他にも、中国、インド、タイからの留学生がそれぞれ自国について紹介をしました。フィンドレーは小さい街ですが、学校や地域単位でも国際意識を高めるためにこのような機会が多いような気がします。発表は、パワーポイントを使い、挨拶、地理、アメリカ人が意外に知らない日本の文化について、小学生対象に行いました。その後、小学生たちと新聞紙でかぶとを作りました。「折り紙」という文化はアメリカの中でも浸透しつつあるように感じました。小学校の算数の授業では、図形の単元で折り紙を使うこともあるそうです。実際にかぶれる大きなかぶとは、小学生の男の子にとっても人気で喜んでいました。

☆Ohio-Free Tech 2010

フィンドレーから45分程離れたトレドという町で Ohio-Free Tech という学会がありました。これは、どのようにパソコンやスマートボードを授業内で活かすかということを中心にあてた学会でした。スマートボードとはインターネットと接続されていてタッチパネル機能のある白板のことです。こちらの小学校ではこのようなテクノロジーが学内にもたくさん組み込まれています。まだまだ日本では、授業中にインターネットで自らリサーチをしたり、You Tubeなどで動画を見たりということはあまり浸透していないように思います。子ども達の「なぜ」を解決する方法として、このようなテクノロジーも必要だなと感じました。きっと近い将来は日本でもテクノロジーを使って授業が行われる日が来るのだらうなと思いました。



☆ニューヨーク (2月28日～3月3日) ポストン (3月4日～7日)

春休みを利用してニューヨークとポストンに行ってきました。ニューヨークのブロードウェイでミュージカルを見るのは、中学生の頃からの夢でした。それがついに叶い、タイムズスクエアに着いた時は感動的でした。ニューヨークでは、美術館やセントラルパークなど有名な観光地を回りました。



1日だけ、一人でニューヨークを観光しましたが人の優しさに驚きました。私がアジア人だからなのか、観光客に見えたからなのかはわかりませんでしたが、道を聞いた時や写真を撮ってもらった時もとても親切でした。ニューヨークは本当に人種のるつぼで、白人ばかりのフィンドレー



とは大変違いました。そういう意味では、いろんな人種や文化が混ざり合っているニューヨークは私にとって新しい経験でした。



ボストンには、アメリカ独立に関する歴史的な建造物がたくさんありました。ボストンにいる友達が、ボストンは日本でい



う京都のようだと教えてくれました。フリーダムダム・トレイルという道を歩いて行くと、有名な教会や歴史的な建造物を一通り見ることができます。また、ボストンは海が近いのでロブスターやクラ

ムチャウダーで有名です。昔、移民たちがボストンやニューヨークなど、この辺りに来たので、チャイナタウンやイタリアンレストラン、アイリッシュパブもたくさんありました。ニューヨークと比べると、町がとてもきれいで、建物の多くはレンガ造りでした。ボストンでも数日、一人で観光しましたが危険なことには遭遇しませんでした。ボストンでは美術館やボストンレッドソックスの球場があるフェンウェーパークなどに行きました。ジョンFケネディ博物館に行く途中、ニュージャージーから来た老夫婦に出会い、一緒に博物館を回りました。私の質問にもわかり



りやすく答えてくれて、本当にいい人と出会うことができました。アメリカの歴史や政治の勉強も少しできてよかったです。偶然にも、その夫婦の姪が日本人の方と結婚したようで、日本の事もたくさん話しました。たったの 2、3 時間でしたが、ホストファミリーのようで本当にいい思い出ができました。



2009－2010 フィンドレー大学 福井県奨学生月例報告書 3 月分

作成者 山下 佳菜恵

2010. 4. 14

留学生活も残り 2 ヶ月をきりました。留学中の目標の一つであった、TOEIC の 900 点越えもやっと今月達成することができ、少しほっとしています。残り少ないですが、気を抜かずやりたいことはすべてして帰りたいと思っています。また、友達との思い出をもっと作って帰りたいです。

☆Van Buren Language Program

3 月の 2 週目からバンビュレン小学校で日本語を教えるプログラムに参加しました。これは週に 1 回、6 週間のプログラムで児童は大休みを使って、歌やゲームで言語を覚えます。参加者は参加したい児童だけです。日本語の他には、中国語とスペイン語があり日本語のクラスには計 16 人の児童が参加することになりました。挨拶や数字、自己紹介などを童謡のメロディーにのせて導入しました。歌の導入の後にはゲームを通して新しい言語の練習をしました。1 回目には挨拶や「たってください」「すわってください」「しずかに」などの表現を教え、毎回なるべく日本語を使うようにしました。また、歌にはその意味に関係する動きをつけて、ダンスのようにし、覚えやすくする工夫をしました。毎回復習をしていたので、6 回を終えてほとんどの児童が歌詞を見ずに歌うことができるようになりました。児童も「この歌を歌いたい」ととても楽しそうに参加してくれるので、とても嬉しかったです。6 回目の最後には、私から折り紙の鶴と 5 円玉とカタカナで書いた名前カードをプレゼントしました。最後には児童達から手紙をもらいました。「I miss you」と言いながらハグをしてくれる児童もあり、本当にやってよかったと思えました。子ども達の中で歌を通して、少しでも日本語を覚えていてくれているといいなと思います。また、将来このことがきっかけに日本にもっと興味を持ってくれるといいなと思います。



☆Saint. Patrick's Day

3 月 17 日はセント・パトリックスデーでした。この日は、アイルランドにキリスト教を普及したセント・パトリックの命日だそうです。この日は、学校でも多くの人が緑色の服やリストバンドをして、



お祝いをしていました。また、学内ではそれにちなんだイベントやアイルランドで有名なバクパイプを演奏する学生もいました。この



日は天気もすごく良かったので、外で聞いている人も多くいました。また

この日には、緑色のビールを飲んでお祝いします。中国人の移民が中華料理店を開くように、アイルランドからの移民はお酒が好きなためパブを開くので、NYやボストンなどにはたくさんアイリッシュパブがありました。私は、セント・パトリックデーを初めて体験したので、いろいろと面白かったです。

☆フィンドレー高校の社会学

22 日にフィンドレー高校の社会学の授業にゲストスピーカーとして参加する機会がありました。基本的にはグループディスカッションで、日本人一人に対してアメリカ人 5、6 人で日本のことについて話しました。やはり高校生なので、日本の高校や高校生活などについて興味があるようで、そのことについて話しました。私もアメリカの高校については、映画で見るような自由な雰囲気しかしれませんでしたでしたが、思っていたより厳しいという印象を受けました。大学のよう単位制なので、一人一人が大人として責任を持たなくてははいけません。服装は自由ですが、だからといって決して学校生活が楽なわけではないようです。しかし、日本と比べれば大学受験のような制度はないので、単位を3年までに取ってしまえば4年時に時間的に楽になるそうです。他にも、日本の校則についても話しました。私も知らなかったことをいろいろ知ることができ、また高校生とカジュアルに話せてとても楽しかったです。こちらでは、日本の事を考える機会が本当に多いので、日本の文化や言語についてもっと興味を持てるようになりました。このことも、英語を教えるときに活かされるといいなと思います。

2009－2010 フィンドレー大学 福井県奨学生月例報告書 4月分

作成者 山下 佳菜恵

2010. 5. 14

8ヶ月間の留学を終え、報告書も今回で最後となります。最後まで授業や課題で忙しく大変でしたが、自分ができることはすべて実行し、自分の中で全力を尽くすことができました。今回は、4月にあった大きな行事について報告したいと思います。

☆イースター

4月2日から4日までイースターブレイクがありました。イースターとはキリストがよみがえったとする復活祭のことです。日本では特別にこの祝日を祝ったことがなかったので、とても楽しみにしていました。友達とはエッグペインティングやエッグハントをしました。普通は小さな子どもがいる家庭で行われているようです。そして、この3日間の休みを利用して友達の実家のシカゴに行ってきました。観光はもちろん、ここでも友達の家族と一緒にイースター行事を十分に体験しました。また、シカゴで有名な分厚いピザも食べることができとても楽しい休暇になりました。友達や友達の家族には、本当の家族のように扱ってもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。また、友達が日本に来たときは私がしてもらったようにいろいろな所に連れて行ってあげたいと思います。



☆International Night

16日の金曜日にインターナショナルナイトがありました。このイベントは各国の留学生が自国の文化について各自ブースを出し、夜には踊りやパフォーマンスを行うイベントです。このイベントのために日本人留学生も1ヶ月前からよさこいの練習をしてきました。日本でよさこいをしてきた経験をこちらで活かすことができ、嬉しかったです。日本はよさこいと盆踊りを披露しました。よさこいの間奏に、男子が空手の組み手と板割りを見せ盛り上がりました。このイベントを通して、場所も知らなかった国のことや場所は知っているけど深くは知らなかった国について、いろいろ興味を持つことができました。また、このイベントを通して自分の国が周りからどのように見られているのか、客観的に日本のことを考えることができました。お昼には、小学生たちが来て、日本の伝統的なおもちゃであるけん玉や紙風船で遊んでいる姿を見て、嬉しくなりました。夕方になると、各国の食べ物も用意されとてもにぎやかなイベントとなりました。インターナショナルナイトは自国のことだけでなく世界のことを考えるととてもいい機会になりました。



☆フィンドレー大学での留学を通して

フィンドレー大学で過ごした8ヶ月間は、本当に貴重で充実したものになりました。それは、フィンドレー大学の勉強しやすい環境と友達や周りの人たちのサポートがあったおかげだと思います。また、語学のためだけの留学にとどまらず、積極的に教育やアメリカについて知ることができたのも、実際に肌で感じ体験できたおかげです。

今回の留学で改めて気づき、常に考えさせられたことは「言語や行動のすべては歴史を含むその人の文化から生まれるもの」ということです。アメリカの文化や社会問題を意識する上で、日本についてもより意識して考えるようになりました。また、大学内に収まらず、キャンパス外で多くのことを経験し、多くの人といろいろな話をする中で視野が大きく広がりました。私が経験したことや感じたことをここで一つ一つ説明することはできませんが、この経験は確実に私の一部としてこれからの教員生活の中で大いに役立つと信じています。そして、このような貴重な機会を与えてくれた方々に感謝し、福井県の教員として世界に目を向けられる生徒の育成に貢献できたらと思います。ありがとうございました。

